

◆ 特集対談 ◆ 能代市地域おこし協力隊 【宇宙×観光×バスケット】

今回は令和元年11月より3名体制となった能代市地域おこし協力隊の隊員の皆様から、日ごろの活動やこれからの能代市に期待することを伺ってまいりました。

現在、能代市では八巻枝美さん、花下哲さん、千勝数馬さんの3名が着任しています。

Q 着任前の略歴や能代市での担当をお聞かせください。

八巻さん 私は「宇宙」のまちづくりを担当しています。着任前は長野県阿智村で星空のガイドの経験があり、能代でも「星空」の魅力から宇宙を身近に感じてもらう活動に取り組んでいます。一人でも多くの市民に自分たちのまちのよさを知ってもらえるよう星まつわる企画を行っています。

花下さん 令和元年5月より着任しましたが、それ以前は札幌に住んでました。能代出身ですが高校卒業以来、能代に住んでいなかったため、定年後の生き方として故郷に貢献できることはないかと考え、応募しました。協力隊では、あきた白神エリアの広域的な「観光」を中心に、情報発信、地元への受け入れ体制の環境整備などを支援しています。秋田犬の本場は大館ですが、能代市にも全国トップクラスのブリーダーがあるので、連携していきたいです。

千勝さん 令和元年11月に着任したばかりですが、私自身もバスケット経験者で、能代には憧れがありました。全国でも「バスケット」でまちづくりができる地域はここしかない、市庁舎でウインターカップのパブリックビューイングを行っている、一カ所に多くの方が集まって盛り上がっていますので、バスケットをツールとして地域おこしに生かしていきたいです。また、能代の公園にはバスケットゴールもあるので、自然にプレーできる人もふやしていきたいです。

Q これまでの活動を通じて地域の実情で気がついたことはありますか。

八巻さん 私は岐阜県出身ですが、外から来た者の目線として、能代には人を集めることのできる魅力がたくさんあります。多くの人が能代に来ること、地域に仕事が生まれ、人がふえていくのかなど。新たなものでなくとも、今でも十分魅力的ですし、子ども館と連携してPRしていきたいです。

花下さん 能代の観光施設を訪ねると、ここにしかない強みがあつて、例えば八巻さんも言われた子ども館であったり、ロケット実験場、檜山城跡地、水素の実験、木都文化もすばらしい。その各分野で活動されている個人の方や団体とのつながりができればさらに地域おこしが進むのではないかと思います。

千勝さん 協力隊になる前から何度も能代カップを観戦しましたが、仕事のままバスケットを観戦できる環境は、能代だけかと。道の駅ふたつにもコートが整備されていると聞いて見に行きましたが、毎週100人近くの利用があると聞き驚きました。

八巻さん 道の駅で思い出しましたが、カヌー体験はすごい。あのロケーションで、しかも持参品要らず手ぶらで利用できることは知りませんでした。

花下さん カヌーはいいですね。ひっくり返るイメージが強かったのですが、実



際に乗ってみると安定感がすごい。

聞き手 ニツ井のカヌーは実際には川舟をアレンジした舟だったので、競技用とは違う魅力があるかもしれませんね。ヨルダンの訪問団も大喜びで体験していました。

Q 最後に今後の活動や市民に伝えたいことなどを教えてください。

八巻さん これまで能代市以外からも星空ガイドのオファーをいただいています。そこでもしっかりと能代での活動をPRしていますので、星で人を呼び込みたいです。ただ能代には宿泊で秋田らしい体験ができる箇所がまだまだ少ないと感じています。秋田らしい楽しさを伝えていくこともっと売り込めるはず。任期後は、星空を生かしたイベント等の会社を起業し地域おこしに貢献したいです。

花下さん 以前は帰省のたびに町並みの寂しさを感じていましたので、元気になるお手伝いをしていきたいです。今は個人でも市の補助事業を活用してバスケットの街づくりを応援していますし、能代にあるさまざまな魅力に地元の人たちが自信をもってもらえるよう活動していきます。

千勝さん ここ数年は地元が誇る能代工バスケット部がなかなかいい成績をあげられない中、今だからこそ市民が応援していくときだと思います。そのお手伝いとして情報発信や企画で盛り上げていきたいです。東京五輪では3×3も正式種目となったので、その試合に関する企画も考えているところです。

協力隊の皆様、取材に御協力いただきまことにありがとうございます。

取材：菅原隆文 佐藤智一